



①帰宅～母に注意される

題名：「れん君とあわりいの手洗い大冒険」

登場人物

れん君……活発な5歳の男の子。運動とおやつが大好き。手洗いがきらい。

お母さん……れん君のお母さん。

あわりい……泡の妖精。世話好きな活発な女の子。

魔法を使う。

「使用する魔法」

ミニミニミニオン！

シャボンブクブクアワリスター！

バイキン……時にはおなかを痛くする悪いやつ。

バイキング……バイキンの王様。

れん君は外で遊ぶのが大好きな男の子。今日も友達と遊んで泥だらけの手でおうちに帰ってきました。

れん君

「ただいま～！お母さん」

お母さん

「お帰りなさい、れん。おやつの用意が出来てるよ。」

れん君

「やったね！いただきます～す。」

れん君は早速シュークリームに飛びつこうとしました。ところが、

お母さん

「待って、れん。おうちに帰ったら最初にすることがあったよね？」

れん君

「……手を洗って、うがいをする。」

お母さん

「正解。さあ、洗面所へ行ってらっしゃい。」

【線までぬく】

演出ノート

れん君とあわりいの手洗い大冒険 10場面

平成26年9月発行

●発行 兵庫県

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1

TEL 078-341-7711(代表)

※この紙芝居を無断で複写・転写することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。

しりとり



②水洗いですませる
悪いれん君、
あわりい登場

れん君は洗面所に来ました。

れん君
「水だけでいいよね。」

水だけで手洗いをすまそうとしたその時でした。

あわりい
「ちよっと！れん君！」

聞き覚えの無い声がします。すると・・・あれあれ、
石けんボトルから泡に包まれた小さな女の子が出てきました。

【あぐ】

あわりい
「私は石けんの妖精あわりいよ。どうして私を使って手を洗わないの？」
突然出てきた妖精にれん君は目を丸くしました。

れん君
「でも土は水でも落ちるよ！ほら見て、きれいでしょ？」
あわりい
「れん君、石けんには、バイキンをやっつける力もあるのよ。
水だけじゃ、バイキンはいなくならないんだから！」

れん君
「えー、でも・・・。」
あわりい
「なら、しょうがないわね。」

するとあわりいは魔法の言葉を唱えました。

【あぐ】

演出ノート



③小さくなるれん君

あわりい

「ミニミニミニヨン！」

なんてことでしょう。れん君の体はどんどん縮んでしまいました。目を開けると、崖の上に立っていました。

れん君

「あわりい、ここはどこ？」

れん君は不安そうです。

あわりい

「ここはれん君の手のひらの上よ。」

れん君

「僕の手のひらの上？あの崖はなに？」

あわりい

「あれは手のシワよ。」

れん君

「えっ！こんなに深いの？」

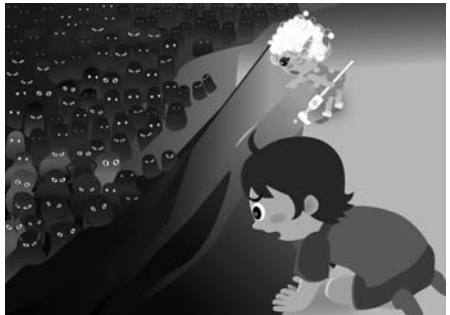
【めくりながら】

ふんふん

【くぬ】

演出ノート

不安そうに



④手のしわに バイキンを発見

あわりいは崖の下を指さして言いました。

「れん君にとっては平らに見えても、バイキンにとってはこんなに深いのよ。
ほら、あそこを見て！」

れん君
「もしかしてあれがバイキン!？」

あまりの数にれん君は驚きました。

「そうよ。手のシワはバイキンのすみかなの。もしバイキンが口に入ってしまったら、おなかที่痛くなったり、熱が出たりしてしまうの。」

その時でした。

【おへ】



⑤手洗いではいなくならないバイキン

ザバー、ザバーと水が流れてきました。

バイキンたちは水の流れの中に飲み込まれました。

れん君

「ほら、あわりい見てよ！あれだけ水が流れたら大丈夫でしょ！」

れん君は得意げに言いました。

しかし、耳を澄ますとバイキンたちの声が聞こえてきました。

バイキン

「水なんてへっちゃらだ！この子は水でしか手を洗わないから、

こわくないぞ！今からおやつといっしょに口から入って、

悪さをしてくれるわ！」

れん君

「え〜!!バイキン全然いなくならないよ〜。どうしよう、あわりい〜。」

【めくりながら】

あわりい

「わかったでしょ？れん君。水だけじゃ、だめなの!!

あいつらをやっつけるには石けんパワーが必要よ！」

【めく】

演出ノート

得意げに

わるそうに

とまどった感じで



⑥手のひらのバイキンをやっつける

あわりい

「シャボンブクブクアワリスター！」

あわりいが呪文を唱えると、ステッキから真っ白なふわふわの泡が出てきて、バイキンを包み込みました。

バイキン

「ふにゃあああ・・・。」

れん君

「すごい!!石けんで手を洗うとバイキンをやっつけられるんだね。」

きれいになった手のひらを見て安心した二人は、さらに冒険を続けました。

【ぬく】



⑦指先や爪にも
バイキンがいたよ

れん君
「結構歩いたね。」

二人はとうとう手のひらを抜けて爪の先まで歩いてきました。
すると突然、

バイキング
「おい、小僧。」

れん君はあたりをキョロキョロしましたが誰もいません。

バイキング
「どご見てるんだ、ここだ！」

ハッと足元を見ると、透明な爪の向こうにビッシリとバイキンが
詰まっています。

バイキング
「おれは、バイキンの王様、バイキング様だ！手のひらだけが俺たちの
すみかじゃないぜ。」

れん君
「えっ!!バイキンは爪にもいるの?」

「そうよ。れん君、爪は泡が届きにくい場所なの!
だからしっかりと洗わないといけないの」

【くぬ】

演出ノート

おそろしい声

きゅんきゅん



⑧ピンチ

バイキングが言いました。

バイキング

「我々のすみかを勝手に歩き回りやがって！

見つけたからにはタダではおかん！」

バイキンたちはれん君とあわりいに襲いかかってきました。

あわりい

「シャボンブクブクアワリスター！アワリスター！アワリスター！

ダメだわ、きりがない。私の力だけではやっつけられないわ！」

あわりいは魔法を使いすぎて疲れてしまいました。

バイキンたちは今だ！とばかりに近づいてきます。

あわりい

「バイキンたちをやっつけるには、れん君がしっかり手洗いすることが
必要なの！」

れん君は決心しました。

れん君

「僕は、指だって爪の間だってしっかり洗うよ！あわりい、僕約束するから。
だから、いっしょにバイキンをやっつけよう！」

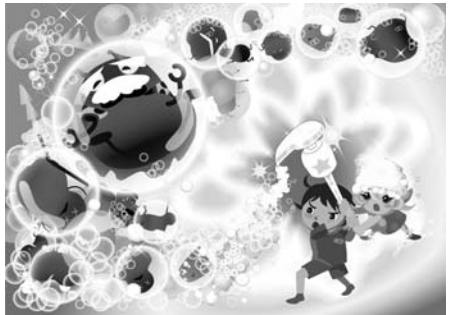
れん君はあわりいの手を取って言いました。

【ぬく】

演出ノート

魔法は段々弱々しく

力強く



⑨バイキングを退治

あわりい
「れん君、ありがとう。力を合わせれば、

どんなバイキンもやっつけられるわ。さあ行くわよ!!

シャボンブクブクアワリスター、フルパワー!!」

ちからこ
力を込めたあわりいの魔法は、爪の奥まで入って、バイキンの大群を
つつこ
包み込みました。

バイキング
「何と…!すごい力だ。」

あわりい
「バイキンたちは泡に包まれ、消えてしまいました。」

れん君
「あーよかった。これでおなか痛くならないね、あわりい。」

【めくりながら】

と、振り返ると、そこはれん君のおうちの洗面所。

【くぬ】

演出ノート

魔法は力強く



⑩しっかり手を洗う
れん君

あわりの姿も見えなくなっていました。

れん君

「あれ？あわりいは？僕、夢を見ていたのかな？」

そう言うとなん君は石けんを出して、

手のひら、手の甲、指、爪の先、手首まで

丁寧に手を洗いました。

れん君

「あわりい、僕、手洗いのお約束しっかり守るよ。」

石けんで手を洗えば、こうやって、いつでもあわりいに会えるよね。

シャボンブクブクアワリスター！」

れん君はあわりいとの冒険で手洗いの大切さを知ったのでした。

【おしま】

演出ノート

ゆっくら